

令和3年度 卒業式 校長式辞（令和4年3月2日）

春の訪れが感じられる今日の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、岡山県立岡山朝日高等学校第73回卒業式が挙行出来ますことは、大変感慨深く、また、大きな喜びであります。

また、朝日高校最大の行事であるこの卒業式に、伝統を継承するため、2年、1年生ホームルーム委員有志が参加してくれていますが、新型コロナウイルス感染症対策の為に参加いただけなかった、来賓の皆様の祝福の気持ちや、本校2年生、1年生全員の卒業生に対する感謝の気持ち、管弦楽部員の心を込めたハーモニーが、この空間に満ちていることを感じます。

ただ今、344名に卒業証書を授与いたしました。栄えある岡山朝日高校の卒業生となった皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、本校に入学して以来、今日に至るまでの様々な思いが胸をよぎり、感無量のことと拝察いたします。成長されたお子様の今日の門出を、心よりお慶び申し上げます。

卒業式に臨み、卒業生の皆さんの思いはどのようなものでしょうか。特に、1年生の終わりからは、新型コロナウイルス感染症対策のために、当たり前と考えていた日常生活や教育活動が制限されることとなりました。昨日配付された卒業アルバムを見ていくと、一日ホームルームでの河原のバーベキュー、富士登山、百人一首大会等「1年の思い出」や「1年授業風景」のページはマスクなしの実に楽しそうな写真で構成されています。2年生以降の写真の多くは、マスク姿の写真です。本当に、不安やストレスを感じてきたし、大学受験期の今も感じていることと思います。

しかし、昨年度の朝日祭開会式での「コロナ禍の中、制約や制限はあっても、朝日に限界はありません。」という生徒会長のことばのとおり、皆さんは、環境の厳しさに耐え、今日に至るまで、密度の濃い日々を過ごしてきました。学習や進路決定においては、「志」と努力と挫折と再生を繰り返してきました。部活動や朝日祭、様々な文化活動・体育活動においては、友と葛藤しつつも心通わせて取り組みました。一人一人の「記憶に残る」日々であったと思います。一人一人が自分らしく、また、時に新しい自分をつくって努力してこられた皆さんに対し、ご卒業を心から祝福いたします。

皆さんの今日あるのは、皆さんの努力は勿論、これまで支えてくださった保護者の方々の深い愛情、同窓生や、気づきにくいかもしれませんが地域社会の方々の、岡山朝日高校の生徒に対する温かいご理解とご支援と期待の賜でもあります。このことを、決して忘れないでください。

本校の教育は、長い伝統の中で培われてきた「自主自律」を重んじ、自由を尊重

する態度の涵養を基本としています。自分の個性を伸ばす、「のびやかな学校」でありたいと考えています。そして、本校の最も強みとするところが、「共に高め合う友人」の存在です。皆さんは、千人を超える多才・異才の多様性に富む朝日高生の中で、場所と時間と体験を共有してきました。

本校での三年間の生活が、一人一人のこれからの人生にとって大きな力となることは間違いないと考えます。皆さんには、人生の時々、その原点となる本校での生活を振り返り、誇りをもって歩んでいただきたいと思います。

今日の門出にあたり、皆さん全員に次のことを期待しています。

「自己肯定感を持ち、自分自身を大切にすることです。皆さん一人一人が、保護者の皆様が、教職員が、今ここに共にいること自体が奇跡であり、かけがえのない大切なことです。自分の可能性を強く認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と支え合い、助け合う「自重互敬」の存在であってほしいと思います。今、ウクライナやベラルーシに起きていること、日本の、岡山県の、岡山市の社会的な問題を考える基盤もここにあると思います。

どうか健康には十分留意し、本校で学んだこと、家族や友人、後輩の皆さんや教職員との絆を胸に、人生を力強く歩いてください。

終わりにになりましたが、本校教育に対しこれまでご支援・ご協力くださいました多くの方々に心からお礼を申し上げ、式辞といたします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)